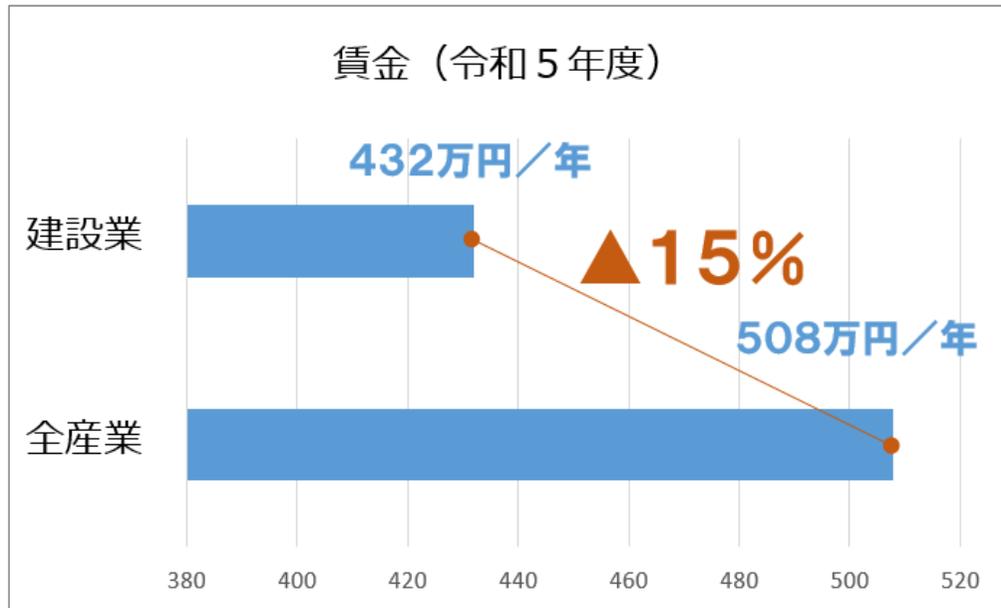


# 中小建設業者のDX推進に向けて

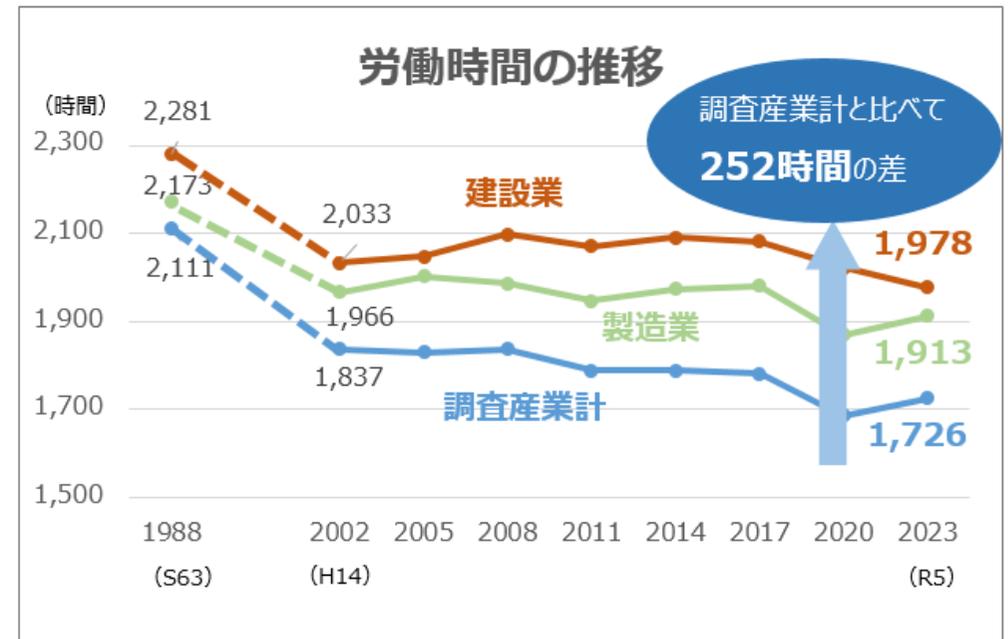
2025年5月

# 1. 建設業の課題（担い手確保）

- 建設業界では、現在深刻な「担い手の確保」の課題に直面しています。その主な要因として、他産業と比較して「低賃金」であることや、「長時間労働」であることが挙げられます。
- これらの課題に対しては、ICTを活用して、生産性を向上させることが、有効な解決策として考えられます。
- 本書では、中小建設業者におけるDX推進の現状や、お勧めできるITツール、活用可能な補助金についてご紹介します。



※建設業賃金は「生産労働者」の値  
出典：厚生労働省「賃金構造基本統計調査」(令和5年)

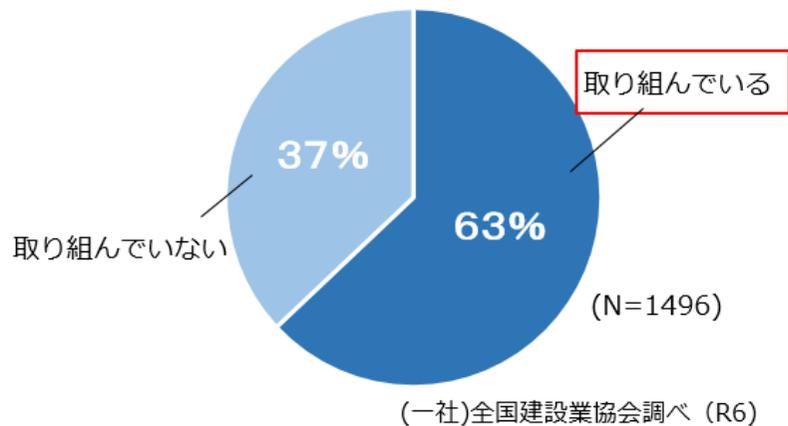


(注) 1. 年間労働時間 = 年平均月間値 × 12  
2. 調査対象は、30人以上の常用労働者を雇用する事業所  
資料出所：厚生労働省「毎月勤労統計調査」

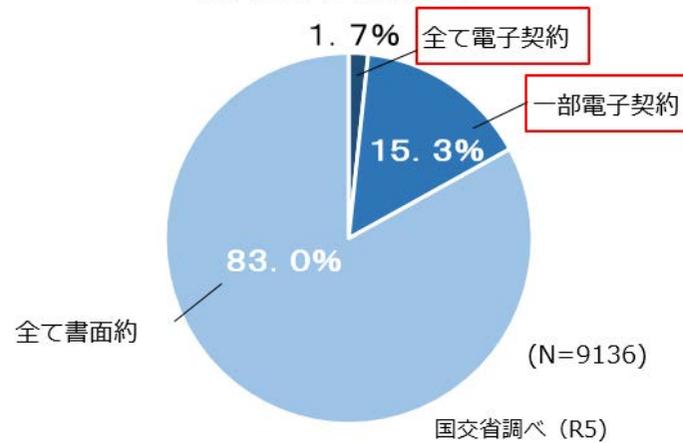
## 2. 建設業のDX推進取組み状況

- ICT施工については、約6割の事業者が取り組んでいる一方で、契約手続きにおいて、電子契約を導入している事業者は全体の約2割にとどまっています。
- 建設業の持続可能な発展のためには、現場管理の効率化や生産性向上に資する建設業のICT化が不可避となっており、長時間労働是正においてもICT活用の取組み（書類授受の省力化、ITツールの活用、ICT建機の導入）が上位項目となっています。
- 令和6年の改正建設業法では、効率的な現場管理のためのICT活用の努力義務及び下請業者のICT活用に係る指導の努力義務が規定されています。

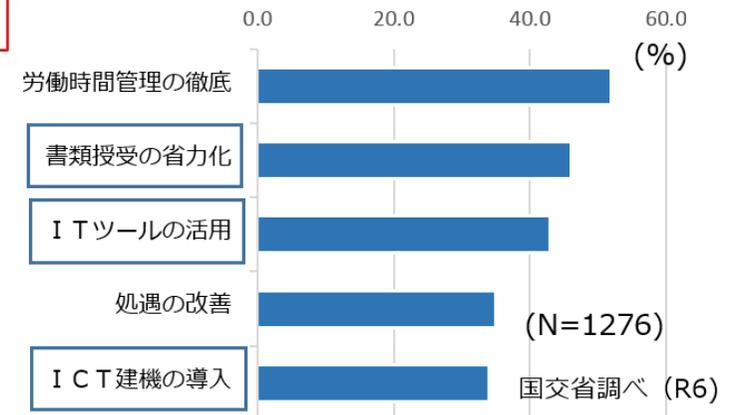
ICT施工の取組状況



電子契約の導入割合



建設会社（元請・下請）が実施している  
長時間労働是正のための取組（上位5位）



### 3. 四国内でのICT施工等の取り組み（事例）

- ICTを積極的に活用する建設業者では、レーザスキャナによる地形測量やICT建機による施工などを実施しています。入社数年目の若手（土木経験者以外含め）や女性技術者が一連の操作を行うこともあり、やる気・やりがいに繋がっています。
- ICTに先進的に取り組む企業では、施工プロセスの全段階でICTを積極的に活用（内製化）し、大きな成果を上げています。

#### ICTを活用する企業の実施例

- レーザスキャナによる地形測量
- 分かりやすい3D設計図
- 3次元での出来形管理（ヒートマップ）
- 自動追尾型光波で位置出し
- ICT建機による施工
- 入社数年目の職員や女性が操作



#### 「ICTの全面的な活用」のステップ

ICTを活用した  
測量業務等

ICTを活用した工事等 <施工プロセスの各段階>

点検支援技術  
を活用したインフラ  
の空間把握

設計業務等

① 3次元  
起工測量

② 3次元  
設計データ作成

③ ICT建設  
機械による施工

④ 3次元出来形  
管理等の施工管理

⑤ 3次元  
データの納品

参考：四国地方整備局「建設業を取り巻く現状と課題（R6年11月）」

## 4. ITツール導入のポイント

- ITツール導入は、基本的に「課題整理」→「適切なツールの選定」→「導入と定着化」の順に進めましょう。
- 現場や事務作業の課題を整理し、どの業務が非効率なのかを明確にします。
- 現状の運用で困っている点などを現場監督・作業員・事務担当者などの意見も参考にしてデジタル化で解決できるポイントを探ります。
- 下記の具体的なポイントや紹介可能なITツールを参考にしてください。

業務カテゴリ	主な改善ポイント	目指す効果の例	紹介可能なITツール
現場管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>・工程管理の方法</li> <li>・作業員の勤怠管理</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ペーパーレス化</li> <li>・リアルタイムな情報共有</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・施工管理システム</li> <li>・現場管理システム</li> </ul>
事務作業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・請求書や見積書の処理方法</li> <li>・データの保管・共有方法</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・作業時間の大幅削減</li> <li>・ペーパーレス化による経費削減</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・土木積算システム</li> <li>・日報管理システム</li> </ul>
コミュニケーション	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現場と事務所間の情報共有</li> <li>・顧客との連絡手段</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報伝達の迅速化</li> <li>・移動時間の削減</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・下請業者向け経営管理システム</li> <li>・現場DXプラットフォーム</li> </ul>
コスト管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>・材料費の管理方法</li> <li>・労務費の把握</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・無駄な支出の発見</li> <li>・在庫の適正化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・原価管理システム</li> <li>・引合・粗利管理システム</li> </ul>
人材管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人手不足の状況</li> <li>・若手育成の取り組み</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・労働時間の適正化</li> <li>・暗黙知の形式知化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・勤怠管理システム</li> </ul>

## 5. ITツール導入に活用できる補助金

- ITツール等の導入にはコストがかかりますが、補助金や助成金を活用すれば負担を軽減できます。地方自治体が独自に提供する補助金や助成金もありますが、一例として、ITツール等の設備投資が対象となる**IT導入補助金**、**ものづくり補助金**、**中小企業新事業進出補助金**をご紹介します。

補助事業名	制度概要	補助額	補助率	公募期間	公式サイト
<b>IT導入補助金</b>	業務の効率化やDXの推進、セキュリティ対策に向けたITツール等の導入費用を支援	最大450万円	1/2～4/5以内	～7/18	
<b>ものづくり補助金</b>	革新的な新製品・新サービス開発、海外需要開拓を行う事業に必要な設備投資費用を支援	最大3,000万円	1/2～2/3以内	～7/25	
<b>中小企業新事業進出補助金</b>	既存事業と異なる事業への前向きな挑戦を支援。新事業進出、付加価値額、賃上げ等の要件あり	最大9,000万円	1/2以内	6月頃～7/10	

※上記は2025年5月9日現在の情報です。各補助事業の制度内容や公募期間は随時変更される可能性があります。また、従業員数や企業規模、特例要件等によって補助金額や補助率等も異なりますので、詳細は各公式サイトでご確認ください。

※ITツールの導入に当たっては、**当行（デジタルプランニングデスク）**によるご支援も可能です。